

伊奈町教育委員會會議錄

招 集 期 日	令和6年7月17日(午前)		午後9時15分	開 会 場 所	役場3階第1会議室	
開閉の日時及び宣言	令和6年7月17日(午前)		午後9時15分	臨時又は仮議長		
	令和6年7月17日(午前)		午後4時37分	臨時又は仮議長		
	議 長	高瀬 浩	議 長 代 理	仮 議 長		
委員の応召並びに出席の状況	議席No.	氏 名	出欠の別	議席No.	氏 名	出欠の別
	1	高瀬 浩	出	4	成田 弥寿子	出
	2	三國 隆夫	出	5	西川 智美	出
	3	土方 一匡	出			
議 事 参 与 者		教 育 次 長 教 育 総 務 課 長 教 育 書 記	高瀬 長 小林 長 吉川 長 斉藤 記	浩 薫子 誠一 さゆり	学 校 教 育 課 長	新田 隆
					学校教育指導主事	甘楽 博
					学校教育指導主事	小河原 啓太
					学校教育指導主事	矢嶋 梨恵
					学校教育指導主事	野原 航
					学校教育課程学校教育指導員	落合 啓志
					学校教育課程学校教育指導員	加藤 浩之
					会 議 事 件 名	未 題

開 会 署名委員 議事	午前9時15分 4 番 西川委員 令和7年度使用中学校用教科用図書採択に関する審議について 議長： 本日の審議について慎重な審議をお願いする。 会議内容は議事録として公開するので、活発な議論をお願いする。 事務局：進行及び配布資料について説明 議長： では、審議に入るが、審議に入る前に、今後の採択協議に係る日程及び協議の参考資料について説明をお願いする。 事務局： はじめに、採択協議に係る日程だが、別紙、下段【今後の採択協議に係る日程】をご覧ください。 ① 本日の臨時教育委員会は、②の7月22日及び23日の第七採択地区教科用図書採択協議会に臨むにあたり、伊奈町教育委員会としての案を決定するために行うもの。この案をもって、鴻巣市で開催される採択協議会に臨み、ここで、第七採択地区で使用する教科用図書が選定される。 ② 7月22日・23日の採択協議会では、4市町がそれぞれの考えを示し、第七採択地区としての教科用図書選定の原案を決める。
----------------------------------	---

	③ 7月24日の伊奈町定例教育委員会に、この採択地区の原案を持ち帰る。4市町の教育委員会が原案を承認すれば、この地区の令和7年度使用中学校の教科用図書が決定し、採択される。本日は、このような流れの中で、「第七採択地区教科用図書採択協議会で採択する前」の「伊奈町教育委員会案の決定」のために行う協議になる。 議長： それでは、中学校教科用図書の調査研究結果の説明・質疑を国語から1種目ずつ行い、中学校の教科用図書について協議を行い、伊奈町教育委員会としての案を決めていきたい。 なお、先ほど事務局より説明のあった、7月22日・23日の第七採択地区教科用図書採択協議会で各市町の意見が割れたときに備えて、伊奈町として案を第1案から第3案まで決めておきたいと考える。意見を述べる際には、そのことを踏まえて、伊奈町の子供たちに必要と思われる教科書を順に発言頂きたい。 それでは、国語、書写、英語、地図、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、数学、理科、音楽一般、器楽合奏、美術、保健体育、家庭分野、技術分野、道徳の順に行う。 事務局から調査研究結果の説明をお願いする。 事務局： これより、各担当が、中学校教科用図書の調査研究の結果の説明を申し上げます。その際、資料1をもとにお話しするが、総合的に説明するので、文面と必ずしも重ならないことをご了承ください。 1種目ごとに、担当からの説明・質疑を行い、その後、協議を行い、伊奈町案を決定してまいります。 1. 国語 事務局：調査結果資料に基づき、国語について内容説明
--	--

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

光村図書は生徒が問いを持ち、課題解決していけるよう、学習の流れを示してある。学びの扉が学習を深めて対話を促していく工夫がある。語彙を豊かにする工夫として語彙ブックがよい。二次元コードもとても数が多く、内容もスピーチの動画や話合いの動画などがあって、とてもよくできている。東京書籍は全体的に問題解決的な言語活動が設けられている。豊富な図やイラストがあって、興味を引きつけながら学習の展開ができる。教育出版は、教材ナビで何を学ぶのか、あるいはどのようなに学ぶかという目的意識をしつかりと持たせて学習に取り組めるような工夫があつてよい。3つのステップを通してスモールステップを踏んだ展開というところもよい。

委員：

光村図書は、語彙ブックがよい。小学校から中学校へのつながりが意識されている。見通しを持って学習でき、復習ができてよい。教育出版は、本の紹介が充実している。学びナビがよい。東京書籍で、広がる言葉、言葉の力、言葉の使い方などがよい。

議長：

光村図書は問題解決的な学習を進められる。学習活動が多様であり、生徒たちも、具体的な活動を通して、学び進めるということが想定できる。合意形成に関する記述については、光村図書は非常に具体的に示されている。座標軸で整理するような方法をとつていて、非常にわかりやすい、東京書籍も教育出版も、具体的なポイントを示している。三省堂は、もう少し具体性がほしい。東京書籍は、キャラクターを上手に登場させ、生徒の

思考のヒントになり、主体的な学びができると感じた。教育出版は、細かく問いが示されて、受身になってしまう恐れがある。三省堂については、丁寧ではあるが、主体的な学びという点でどうかと感じた。

委員：

読書単元については、光村図書は中学生の実態に即した中学生を主人公にした作品を取り上げている。中学校入学後の話など、本を読んでもいないという気持ちにさせてくれる。東京書籍は図書館の活用、インターネットとか新聞の活用、読書会の方法など、読書への関心を高める工夫がされている。

議長：

教育出版は文字が細く読みづらいような気がする。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…光村図書、第2案…東京書籍、第3案…教育出版でよろしいか。

(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…光村図書、第2案…東京書籍、第3案…教育出版の教科用図書とする。

2. 書写

事務局：調査結果資料に基づき、書写について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

光村図書の「書写ブック」は、取り外しができて、使い勝手が良い。また、

28ページあり、総ページが165ページある。39ページ、点角の種類が、一目見て、筆圧や筆の入りなどが、見やすかった。表現「トン・スウ一、トン」が、わかりやすく良い。109ページの「日常に役立つ書式」は良く作られている。手紙や、はがきの記述について7つ用意されていて充実しており、見やすい。教育出版は、点画、筆圧の説明が分かりやすい。東京書籍は書写活用ブックが見やすい。人名用漢字表が豊富である。

委員：

光村図書は単元の構成が3段階の「考えよう」「確かめよう」「生かそう」で一貫しており、また、生徒側の視点に立っている。左利きの生徒への配慮もある。東京書籍は、単元の構成が、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」と3段階で、問題解決的で、且つ生徒側の視点に立っており、主体的な学習に取り組む点で良い。また、学習内容の量として丁度良い。東京書籍は書写ブックが参考になる、題材の文字が太くて見やすい。教育出版は、サイズが少し大きい。

議長：

光村図書は、問題解決的な過程で構成されており、取り外しができる書写ブックは非常に役立つ。東京書籍は、サイズが小さくなっているがよい。書写活用ブックが41ページあって非常に充実している。文字が読みやすい。題材の文字が太めでしっかりしている。教育出版は、サイズが大きいこと、説明が多いのも気になるところである。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…光村図書、第2案…東京書籍、第3案…教育出版でよろしいか。

(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…光村図書、第2案…東京書籍、第3案…教育出版の教科用図書とする。

3. 英語

事務局：調査結果資料に基づき、英語について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

一番見やすいのは開隆堂である。発表上手になろうというページが設けられている。36ページにアクションコーナーがあって、楽しく学べる工夫がある。英語の歌も掲載されていて、歌から英語を好きになれるのではないか。三省堂も見やすい。63ページ、90ページ、127ページ目に注目の仕方など日常で使えるような内容があった。東京書籍も見やすい。簡単な内容で話せるように工夫がある。

委員：

開隆堂は1年生から3年生まで、段階的に学期末のまとめの活動があり、よい。1年生は身近なこと、2年生は生活に関する話題、3年生は社会的なことに関する話題で、スピーチの力をつける内容がある。伊奈町の子どもにとっては必要なことであると思う。東京書籍は、各パートのアクティビティをスモールステップで積み上げて、学期の終わりに統合的な言語活動を行っている。内容は、作文、会話、スピーチなどである。開隆堂、東京書籍は、中学生が見ても、異文化の実感ができるようなその内容を取り上げている。例えば1年生でパジャマデーなど、異文化を取り上げていたり、通学距離を比べたり視野を広がる。開隆堂は、学習のゴールが分かりづらいが、東京書籍は、ユニットのゴールが明確に書かれている。三省堂は、

教科書の構成や仕組みがわかりやすい。学校からも、1年生の学習で過去形が他社より早い段階、1学期の段階に出て、夏休みにこんなことやって、あんなことやったということを英語で話せる機会が2学期の夏休み明けに設けられている。開隆堂は、単元の初めのところに、教師とALTのやりとりを聞かせるような場面が取り上げられているので、ALTの積極的活用という面でもよい。

議長：

学校から、開隆堂の内容が以前よりも難しくなっているとの報告がある。

委員：

先生方がやっぱ使いやすい方がいいが、開隆堂は見やすいと感じた。

議長：

東京書籍は4技能の習得を図ることができるよう、実生活に即した題材を設けている。実際の生活の中で使う英語が学べるように工夫されている。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…東京書籍、第2案…開隆堂、第3案…三省堂でよろしいか。
(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…東京書籍、第2案…開隆堂、第3案…三省堂の教科用図書とする。

4. 地図

事務局：調査結果資料に基づき、地図について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

帝国書院の地図帳の使い方が見やすかった。子供たちも使いやすいのではないか。日本の自然災害や防災のページも充実している。東京書籍は自然災害について詳しく書いてある。

委員：

帝国書院は総ページも多く、読みやすい、見やすい。山地の色合いがよい。環境問題や食糧問題、世界の生活文化、現代の問題を丁寧に扱っている。日本の自然災害、最近の線状降水帯の仕組みまで載せている。地理的な見方・考え方についてクイズ形式のものがあり、見方・考え方を鍛えるようなところもよい。鳥瞰図は、見開きページ全面を使っている、地域の動物や特徴のある遺産や建物をわかりやすく示している工夫がある。

議長：

帝国書院は、相対的にページ数の多い分、内容が非常に充実している。9ページから14ページに、地図で考える持続可能な社会の特集が組まれている。地図の場合は見やすく読み取れるというのは大事なことである。色の使い方、陸の方、海の方も含めて、非常に見やすく、子供たちの目にも入ってきやすい。東アジアと日本の交流の歴史という歴史的内容も扱っているが、大陸から日本を見るところという見方や考え方は、地理的な見方、地図の学習から大事である。鳥瞰図が惹きつけられた。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…帝国書院、第2案…東京書籍による

しいか。

(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…帝国書院、第2案…東京書籍の教科用図書とする。

5. 社会（地理的分野）

事務局：調査結果資料に基づき、社会（地理的分野）について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

東京書籍のチェック＆トライは学習内容が身につく。帝国書院は、写真、図が多く見やすい。振り返りが随所に出てきており、復習がしやすい。教育出版は、持続可能な社会に向けて6テーマ設定し詳しい内容が記載されている。

委員：

東京書籍は、全体を貫く探究課題を立てて、活動しながら、まとめ、探究ステップ等があり、課題解決的な学習ができるように工夫されている。個人での活動、グループでの活動、対話的な学びを取り入れている。日本文教出版は、学習の内容を整理したり自分の考えを文章で書かせたり、課題解決的な学習の工夫がされている。教育出版、帝国書院については、先に学習内容を示して、生徒自身が考える余地のない構成になっている。帝国書院は、防災、減災についての内容が充実している。ハザードマップもよい。

議長：

地理について、私達が小さいとき学んだ内容は、ほとんど変わってきてしまっている。新しい指導要領は、何ができるようになるかということと、どのように学ぶかということが大切になっている。主体的・対話的で深い

学びで、具体的な地理的な内容を取り上げながら学び、資質・能力の見方や考え方を育てていくことを大事にしていきたい。東京書籍は、問題解決的な学習過程を教科書の中で表現し、そして具体的な地理的な内容で学習を進めている。まよめの活動も工夫されている。地理で大事にしたいことは、地理的な見方・考え方を育てることである。東京書籍では、「5つの見方」があり「位置や分布・人と自然の関わり・地域と結びつき」は大切な地理的な「見方・考え方」である。地域の調査においても具体的な学習が期待できる。日本文教出版も問題解決的な学習が期待できる。帝国書院、教育出版については、教科書主導のような提示の仕方、ふりかえりが見られる。教育出版のまよめが穴埋めに式になっているのはどうか。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…東京書籍、第2案…日本文教出版、第3案…帝国書院でよろしいか。
(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…東京書籍、第2案…日本文教出版、第3案…帝国書院の教科用図書とする。

6. 社会（歴史的分野）

事務局：調査結果資料に基づき、社会（歴史的分野）について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

東京書籍の教科書では、見開きのページの右側にどの時代を学んでいるのかが良くわかり見やすい。「地域の歴史を調べよう」では、調査の仕方が

詳細に記載されており、子どもたちにとって、授業中の参考となる。見開き下にある「チェック&トライ」では、学習した内容を復習したいときに、振り返りができて良い。教育出版社は、見開きのページにその日の学習の課題が示されているのでわかりやすい。「表現」では自分の言葉で説明するような内容で、子どもたちの学びが身に付く。歴史年表は、一度に全てが見られるのでとても見やすい。帝国書院は、タイムトラベルで、時代の移り変わりの変化が見開きになっており見やすい。何か探してみようという学習では、ヒントが書いてあり、子どもたち誰が見ても、わかりやすい。日本文教出版では、「出かけよう地域調べ」という学習課題があり、テーマの決定、課題の調査、考察のまとめにわかれており、そこを子どもたちが調べたりするところで、参考になって良い。

委員：

問題解決的な展開で、生徒自身が問題を見つけて、その問題を解決するた
めに話合い、毎時間の授業を通して、最終的に振り返ってまとめるという
スタイルの構成であるということを選定の基準とした。その視点で見ると、
東京書籍が、色濃く出ている。日本文教出版、教育出版社、育鵬社も、
似ているところあり、主体的な学習を進めていける。東京書籍は、生徒が
主体的・対話的で深い学びができるような課題を立て、追究し、解決する
スタイルで、見開きの一単位時間の毎時間の授業も同じような展開をとつ
ている。また、各章の導入とまとめのページで、みんなでチャレンジとい
うコーナーを設けており、個人の活動、個人でまとめる活動と、グルー
プでの話合いや、対話的な学びという視点も示されており、主体的な学びが
期待できる。東京書籍の良さとして、写真の大きさも含めて、資料の種
類とその配置、二次元コードが用意されており、主体的な学習を展開しやす
い資料がたくさんあることが良い。日本文教出版は、生徒の主体的な深い

学びができるような構成となっている。単元を貫く問いを立て、本文で追求し、まとめて振り返る、課題解決、問題解決的なスタイルということである。特に、各編の導入では、年表と世界地図を読み取らせて、単元を貫く問いを立て、見通しを持たせる工夫がある。また、歴史を楽しく深く学ぶための人物コラムや、地域に学ぶ歴史プラスアルファという項を設けており、とても工夫されている。各編の導入では、4ページ扱いで、最初の見開きは2枚の大きな絵と写真などを比較し、問いを見つける形で、良さを感じた。教育出版は、前のページや前の単元の最後に、大きな絵や写真等を載せており、繋がりのある次の時代と、その時代との変化を比べて考えさせるという導入は、子どもにとっては、前に学習したことの特徴的な絵や写真と、これから学習する絵や写真を対比できるところが、「時代の変化」について考えさせるようなスタイルをとっており、良いところである。ただ、章の問いを導き出す活動の手立ては、少し弱いと感じる。学習のまとめのところ、振り返りのところでは、年表と地図の穴埋めの問題で知識を確認するが、章の問いを記述式で答えるようなワークシート形式で、やや個人活動が中心となっている。自由社は、人物コラム等が、非常に生徒の知識欲をかきたてるような興味深いものがいくつも載っており、これも大変面白い。ただ、授業の展開をする上で、その教科書の構成や、使い方のページが掲載されていないので、どのように使うのかが分かる説明等があると更に良い。山川出版社は、文字が小さく、量も多く、難しいという印象を受けた。同じ内容でも、資料数が多くて、これを読み取り授業で展開するには、かなり苦労すると感じた。

議長：

問題解決的な学び、主体的な学び、あるいは対話的な学び、深い学びという視点からはたくさん意見が出ているので、違う観点からも調査を行う

た。そのことを中心に意見を述べる。東京書籍では、章の構成も、学び方が問題解決的であり、そして、見開きの本文も同じように問題解決的ということで、非常に意識されて構成されている。日本文教出版も同様である。教科書の構成、学び方が非常に充実していることについては、教育出版も同様である。各章では、3ページで章全体の問題意識を高め、問題を作っていく流れがある。帝国書院、育鵬社も同様である。育鵬社では、「主体的で対話的な深い学びを支える教科書の構成」と冒頭で謳っており、意識しているかと推察できる。ただし、多少、「教科書主導」であることが、育鵬社や帝国書院等を感じる。

地理の内容は、記憶したところで、時代が変わると、変わってしまう内容がある。歴史は、地理ほど変わらないが、私達が小さい頃に学んだ内容、あるいは教員の頃教えた内容が、少しずつ変わってきている。新しい学説が出てきており、古代等では変わってきている内容もある。中世や近世、近代でも、いろいろな立場や歴史観により、主張するものもある。その中で、論争中のものもある。中学生にも「この考え方だけ」ではなく、他にもあるのだと気付かせることは、教科書の役割として重要である。歴史は、小学校でメインになるものを繋ぎながら学び、その後に大きな流れを学ぶ。中学校でも、日本の歴史は学習する。高校生になっても、大人になっても、同じ歴史事象を深く読み込み、自分で調査したり、考えたりすることとが歴史学習特有のものである。その様な視点で、教科書についても、次に繋がるものであって欲しいと願う。

今回、調べた内容は、太平洋戦争前後から戦後にかけての扱いがどうなっているのかということ。もう一つは、それぞれの歴史観を持った教科書だが、様々な歴史的な事象について、違った考え方もあるということや、調査研究が続いている途中である、ということも示されているのかということ

ころを調査した。

太平洋戦争の内容については、学習指導要領の解説を読み解くと、触れなくたってはいけない内容がある。それは、2度目の世界大戦が起こった理由や、その戦争の影響を世界的な視野で考察できるようにし、軍部の台頭から戦争までの経過と大戦が、人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解できるようにすることである。この中で必ず取り上げる内容は、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して、多大な損害を与えたこと。もう一つは、各地の空襲、沖縄戦、広島、長崎への原子爆弾の投下など、我が国の国民が大きな戦果をこうむったこと、これらを通して、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解できるようにし、最終的な狙いは、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付くという内容である。それを受け、どの教科書も文部科学省の検定を通っているので、大なり小なり必ず触れている。例えば、アジアの国々に対して損害を与えたところというところは、触れている。各地の空襲、沖縄戦、広島、長崎、原爆、これはどの教科書も取り上げられており、悲惨な状況が挙げられている。しかし、少しの違いがある。例えば、東京書籍では、アジアの国々に、損害を与えたというところで、このように記述されていた。「多数の朝鮮人や中国人が、意思に反して日本へ連れてこられ、労働を強いられた。女性にもおよび、戦地で働かされた。」あるいは、「現地の住民の日本に対する期待は徐々に失われ、各地で抵抗運動が発生した」というような記述がある。日本文教出版でも、同様に挙げられている。

南京事件をどう取り上げるかということでは、本文の方では、「12月に占領した首都南京では、捕虜のほか、多数の住民を殺害しました」と記載されているが、補足説明では、「当時、この事件は日本国民には知られなかった」、「さらに研究が必要な部分もある」という記載があった。帝国

書院では、多少厳しく書かれていた。「南京を占領した。南京では、兵士だけでなく多くの民間人も殺害された」と記述があり、補足説明では、「この事件は、諸外国から非難されたが、戦争が終わるまで、日本国民には知らされなかった。死者数を含めた全体像については、調査や研究が続いている」ということで、まだ確定はしておらず、調査研究しているとの内容であった。

太平洋戦争についての記載になるが、教育出版については、「当初、日本軍に植民地解放を期待していた。しかし、占領地では、住民に厳しい労働をさせ」、「占領に反対する住民を弾圧した。このため、日本軍に抵抗し、独立を目指す運動が起こった」という記載であった。育鵬社では、長い記述であるが、前文では大東亜会議が開かれ、「大東亜共栄圏を建設すること」が戦争の名目として、より明確に掲げられたこと、しかし、その反面、中国や東南アジアなど日本軍が侵攻した地域では、民衆にも多くの犠牲者が出たこと、東南アジアでは、日本語教育や、神社参拝を浸透させたことに対する反発もあったこと、物資や労働力の確保を優先する日本軍によって、現地の人々が過酷な労働をさせられることもしばしばあったこと、欧米諸国の植民地は戦争が終わった後、十数年のあいだに次々と自力で独立を勝ち取っていたこと」と記載されており、大東亜共栄圏で、日本がアジアの国々を独立させようとしたけれども、そこではかなわなかったこと、十数年をかけて、それぞれの国が自力で独立を勝ち取ったというようなことが書かれている。

日中戦争の内容の箇所では、「このとき日本軍によって、中国の軍民に多数の死傷者が出た。この事件の犠牲者などの実態については、様々な見解があり、今日でも論争が続いている」と育鵬社では書かれている。自由社は、非常に戦争の様子が詳しく書かれており、読んでも一読では理解しに

くい。小学校での歴史を学んだ子どもたちが、中学生になったとしても、ここまでの内容を理解できるのか、かえって混乱するのではないか、記述内容も非常に詳しいが、発達の段階があるため、読み取れるのかと不安になる。日中戦争の内容も、「日本軍は国民政府の首都の南京を落とせば蒋介石は降伏すると考え、12月に南京を占領した」という書き方である。今までの出版社とは違う記述の仕方である。また、太平洋戦争のところで多少、他の出版社と記述が違っている。自由社で気になったことは、教科書の記述で、「情」の部分を書き込んでいる部分がある。例えば、「戦争の勝利を願う多くの国民はよくはたさき、よく戦いました」という文は、他社にはない。沖縄戦については、「日本軍はよく戦い、沖縄住民もよく協力しました」という記述で、この点については、説によっては分かれるところである。山川出版社では、太平洋戦争の扱いについて、いずれも記述はしているが、アジアの国に迷惑かけたこと、戦争の悲惨さについて書かれているが、その論調は、若干違う。

そのほか、歴史に対する「考え方」に関しては、「弥生時代のはじまり」、「邪馬台国の位置」、「鎌倉幕府の成立」など諸説あることを紹介されている教科書とない教科書があり、いろいろな考え方があることを記載しておくことが、これからも歴史を学んでいく生徒に対して大切であると考えた。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…東京書籍、第2案…日本文教出版、第3案…教育出版でよろしいか。

(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…東京書籍、第2案…日本文教出版、第3案…教育出版の教科用図書とする。

7. 社会（公民的分野）

事務局：調査結果資料に基づき、社会（公民的分野）について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

東京書籍は、最初の章の初めの見開きのページで、学習内容が子供たちにわかりやすく示されている。チェック&トライで一時間の学習の最後に振り返りができる。18歳へのステップのページがよい。教育出版は、章の初めに問いがあって、これから学習する内容がどんな内容なのかわかりやすい。図や写真のバランスがよく、見やすい。日本文教出版は、見開きのページでこれから学習する内容がわかりやすく、気づいたことや意見を話し合えるようになっていてよい。

委員：

東京書籍は、導入で特に興味・関心を持たせて探究課題を立てられるようになっている。1時間ごとの学習課題を解決しながら進め、まとめ場面において導入時で考えたことと同じ視点でもって、具体的にまとめるところが良い。見開きの導入の活動の中で、条件を提示して、グループで考えさせる形式があった。78ページに、誰を市長に選ぶ、130ページにコンビニの経営者になってみようという出店計画を立てるようなところ、生徒に話し合わせる材料が実際の生活に近いような形で、生徒を引き付けようとしている具体的な事例が良い。まとめの活動も4ページ扱いで、単元の導入に対応させて具体的に考えさせている。主権者教育の観点から見て、18歳へのステップが非常によくできている。18歳でできること、20歳でできること、選挙の流れ、契約と支払いの方法など、成人に向けての

意識や自覚を高められる。帝国書院はイラストを読み取る活動があつて、見通しを立てて問いを確認させる方法がよい。アクティブ公民という実際の生きた学習を取り入れ、考えさせる展開になっている。108ページに、自分の町の課題を解決する予算案を提案しようというものがある。面白いが、少し難しいのではないか。日本文教出版は、社会参画の意識を持たせられるが、指導する教員は難しいのではないか。

議長：

自由社以外は、基本的には問題解決的な学習を展開することが教科書作りの中に示されている。何を学ぶかも大事だが、どのような力をつけるかということに向かつてどのように学ばせるか、学び方を学ぶということを非常に大事にしている。東京書籍は、問題解決的な内容で、まとめ方も色々で紹介されている。教育出版は、問題解決的ではある。終章のところ、私達が未来の社会を築くということところがあるが、生徒にとって学習しやすいかということに疑問をもった。日本文教出版は、問いの作り方はよい。帝国書院は教科書主導あり、ワークシートのである。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…東京書籍、第2案…教育出版、第3案…日本文教出版でよろしいか。

(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…東京書籍、第2案…教育出版、第3案…日本文教出版の教科用図書とする。

8. 数学

事務局：調査結果資料に基づき、数学について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

実生活に即した問題提示が行われているとのことだが、関心を向けられそう
な出版社はどこか。

調査員：

例えば1年で学習する比例式などで比べると、東京書籍は、料理に関する
問題提示を行うなど工夫されている。

委員：

東京書籍は二次元コードが充実している。他教科との関連も図られている。
考えさせる工夫があり、主体的に学べる工夫がある。大日本図書は二
次元コードがあまりよくないが、詰め込み感もないので、数学が苦手な生
徒も使いやすいのではないか。実生活にもつながる内容が多い。啓林館は
二次元コードが充実している。補充問題の量も充実している。

委員：

東京書籍は、学び方のポイントが示されている。ノートの作り方の解説も
よい。二次元コードは〇×で選択できるものもあり、ゲーム感覚で取り組
める。啓林館は、有料ではあるが読み上げ機能がっている。日本語を苦
手としている生徒や様々な生徒への対応ができる。

委員：

東京書籍の教科書は優れている。関心をもてる構成、学校からも幅広く良
問があると報告がある。啓林館は、話し合いの時間、学び方を重視してい
る。音声付きの解説コンテンツもよい。

議長：

大日本図書は二次元コードが少ない。問題解決の要素が少ない。東京書籍

は、数学に興味・関心を高められるような工夫がある。数学の自由研究もいい。小中の接続に配慮し、ソフトランディングで学習できる。啓林館は学び方を説明している。キャラクターもよい。教育出版は、学びのプロセスが少ない。教科書主導である。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…東京書籍、第2案…啓林館、第3案…学校図書でよろしいか。

(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…東京書籍、第2案…啓林館、第3案…学校図書の教科用図書とする。

9. 理科

事務局：調査結果資料に基づき、理科について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

東京書籍は、単元末に学習内容の整理で重要な用語の復習があり、掲載ページも記載してあるため、前に戻って復習しやすい。その後に、確かめ問題や活用問題等があり、分量的には多いのかどうか。絵や写真などについて、花の断面図を観察し、説明や写真、絵が大きくて分かりやすい。学校図書は、章の初めに振り返ろう、つなげようがあり、前年度学習した振り返りが用意されているため、学習を進めやすい。ページの左側に、気づき、課題、仮説、計画、考察等が分かりやすく提示されているため、学習を進める上で活用しやすい。また、先生からの引き出し、生徒からの引き出し

はわかりやすい。巻末に補充資料が一つにまとまっておりとても見やすい。教育出版は、文章中の重要語句に色がついており、章末に重点と重要用語の色が付いた文字が整理されているので振り返りやすい。所々にあるハローサイエンスは、生活に身近な事柄と関連付けられており、学んだことが何に繋がるかということが興味・関心へとつながっていくので良い。

委員：

東京書籍は、二次元コードがとても充実している。2年生の生物で比較をし、プロローグでは、顕微鏡の使い方がとてもわかりやすかった。文字や写真も大きく見やすい。内容も、詳しくてわかりやすい。教育出版は、内容的にまとまっていてわかりやすく、読みやすい。内容も充実していた。啓林館と教育出版では、二次元コードに関して比較を行い、啓林館の方が充実している。しかし、絵が大きく見やすい代わりに、内容がその分、教育出版より弱いと感じた。

委員：

教育出版の良いところが、科学的に考察させる手順が踏まれている探究的な学習が進められるように工夫されているということ。また、やってみようというミニ観察実験があり、スモールステップで理解を促すような工夫がされている。学力的なことから考え、全ての生徒がそのスモールステップで進めることができるため、配慮がなされている点が優れている。学校の方からの意見でも、疑問から探究する流れがわかりやすい、内容説明が詳しく役立つ内容であり、重要語句も視覚的にわかりやすいという意見もあった。東京書籍は、問題解決的な学習のため、意欲が高まるような大きな写真やイラスト等を効果的に載せており、単元の始まりでは、これから学ぶことが図で示してあってわかりやすい。

議長：

東京書籍、教育出版は、どちらも良い。現行は教育出版だが、東京書籍の方が優れている。科学的な追究の過程がある。その表現が非常にわかりやすい。例えば、仮説に対しては、はてなに対する自分の考え、構想に対して調べ方を考えようという学習が用意されており良い。子どもたちを、理科嫌いにさせないための配慮や工夫がされており良い。どの教科書でも、安全への配慮が十分されている。観察や実験の進め方がわかりやすいため、教科書を使って学習を進めることができる。生活の中から学習が展開されるような、日常生活や他教科との関連が、5社中東京書籍が1番多い。教育出版も良い。いくつか特色があるが、探究の過程も、こちらも飛び出しの帯がある。教育出版は、広げたまま教科書を閉じてしまっても、どの單元からも学習過程が見られる工夫がされている。書き込まれている説明の言葉もわかりやすいため、常に振り返りながら学んでいけるのではないかと。理科の場合は、時々新聞報道される様な事故があるが、事故を起こさないような手立ては、どの会社の教科書にもあるが、ここにもよく示されている。学校図書は、「理路整然」と謳っているが、調査をしていて、理路整然としないので難しかった。一番難しいところであるが、過程の言葉が1から10まであったが、その説明が、固い、難しい。科学を身近にわかりやすく感じてほしいが、伊奈町の子どもはどう感じるか。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…東京書籍、第2案…教育出版、第3案…学校図書でよろしいか。

(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…東京書籍、第2案…教育出版、第3案…学校図書の教科用図書とする。

10. 音楽（一般）

事務局：調査結果資料に基づき、音楽（一般）について内容説明

議長：

・質問、意見等あるか。

委員：

教育芸術社の学びのコンパスでは、まとめがあり、單元ごとに学習がしやすい。二次元コードの内容が格段に充実していた。全体的にも、様々な項目で比較したが、教育芸術社の方が詳しく記載されていた。教育出版は、比べてしまうと、良いところは見つけられなかった。

委員：

教育芸術社の方が、二次元コードが充実している。歌の練習なども、カラピアノというカラオケのようなものがあり、パート別のものも入っており、中学生という年齢的なものも考え、友達の前で練習をするのは恥ずかしかったりする子どもたちも、それを活用することで、タブレットを持ち帰り、家でも練習をしてみようという気持ちになるのでは。他にも、音楽をつくろうというところでも、二次元コードで実際に音が出ているため、想像しやすい。2、3年生のところで、オーケストラの写真等も見開きで、とても分かりやすい。教育出版の方は、オーケストラの写真の方が、少し小さかったように思う。教育出版の方は、二次元コードは、歌に関しては、歌のみに入っていた。音楽を作ろうというところも教育芸術社に比べると、音の見本が少なく、作っていくには作りにくい部分もあるのでは。

委員：

学校からの意見を比べてみた。教育出版の方を上げているところを見ると、歌唱は良いが、鑑賞は多すぎる、創作の方も、最後どのような作品にすれば良いのか見えづらいうというようにあまり良く評価してない。教育芸

術社の方は、歌唱については多少わかりづらいが、鑑賞・創作はとても見やすく、とても良いというように挙げてきているので、順序を見ても、違うのではないかという印象を受けたが、他の学校も教育芸術社を挙げている。3校を見ると、どの学校も、教育芸術社を推薦しているということがわかる。専門の先生方が、教育芸術社が良いと上げているので良いという見方をした。

議長：

表紙を1年、2年、3年で見たときに、教育芸術社だと、上白石 萌音さんと、歌舞伎役者とピアニスト、それに対して、教育出版は、ピアニストと奏者と指揮者ということで、比べようがない。それぞれ工夫したのではないだろうかと思う。違うジャンルの方々である。中身では、1年生のところを比べると、教育芸術社は、浜辺の歌で、教育出版も、夏の思い出と赤とんぼ、教育芸術社も、赤とんぼがある。指揮者については、教育出版の方が詳しい。後半の方の鑑賞では、春も同じ。魔王も同じ。残念ながら、比較した部分での考えでは、答えは出なかった。教育出版には、コンピュータで表現という内容があった。教育芸術社にもあるのか。この様に、コンピュータを使って表現するというのも面白い。子どもたちにとって、楽器は演奏できないが、コンピュータで、何か曲を作ってしまう、そのような活動は楽しいと思った。教育芸術社では、見つからなかったが、教育出版はあった。また、音楽の学びを振り返ろうという内容が教育芸術社にはあった。楽しい活動、リズムゲームというものがあり、これは教育芸術社の方にあり、教育芸術社の方が良い。子どもが、主体的に学べる教材の構成、課題で、学びのコンパス、マイメモデイナーなどがある。教育出版で言えば、アクティブ、シンディング、レッツトライというものがあり、これが特色かと思っただけだ。それぞれ良いところもあるが、相対的に見て、

教育芸術社とさせて頂いた。いた。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…教育芸術社、第2案…教育出版でよろしいか。

(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…教育芸術社、第2案…教育出版の教科用図書とする。

1 1. 音楽（器楽合奏）

事務局：調査結果資料に基づき、音楽（器楽合奏）について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

器楽では、二次元コードを、両方比べたが、必要性や、重要性は結構あるものか。それとも、そこまで必要性がないものか。

調査委員：

必要性はある。指使い等が関係してくるため、授業中では掴みきれない生徒もいるため、持ち帰り復習したりするか、グループごとに使ったりということが可能性として考えられる。

委員：

教育芸術社と教育出版を比べ、教育芸術社の方がリコーダーなどのページが分かりやすく、指の運び方なども良く説明されている。あと、打楽器のところ、色々な楽器に触れた後に、バンドのドラムのことに触れており、バンドスコアなど、なかなか見ることができないものも掲載されている。それも興味を引く内容となっている。教育出版は、比較した結果、ページ

をさいて説明されていないと感じた。リコーダーとかに関しては教育芸術社の方が詳しい。先ほど、二次元コードの重要性を質問し、それを受けての感想だと、教育出版の方が詳しいとも思った。教育芸術社の二次元コードは、どちらかというと伴奏を聞く部分が多かったのに比べて、教育出版の二次元コードの方が、指の押さえ方だとか、詳しく載っているところもあった。

議長：

二次元コードの数は、教育芸術社の方が多い。まだ、意見が出てないところと言うと、例えば、教育芸術社の2ページ、13枚の写真が出てくる。世界の楽器を使っている様子、これで、楽しくなった。それから、スタートページでは、楽器がよく見える。どのページでも、どの楽器のスタートページもリコーダーに限らず、教育芸術社の方は楽器が引き立つが、教育出版は背景に埋もれてしまっているように見える。ギターにしても、何にしても、その楽器がメインで良く見えて、弾いている方が良く見えて良い。大体、8つぐらいでているが、その楽器と演奏風景が、見やすく、わかりやすいという点が、器楽として大事なことである。二者択一なので、それに対して、教育出版は大事なことが劣っていた。面白いのは、教育出版の1ページ、音楽の力で人と社会を未来へ繋ぐという言葉がある。また裏表紙には、テーマが記載されている。学びの力で人と社会を未来へ繋ぐという言葉もある。これからの子どもたちに対して、音楽なら、または音楽で未来社会に向かって、子どもたちに伸ばして欲しいという、何か願いのようなものがあるのではないか。それなりに良いところもあるが、楽器をどう使うかという観点から比較し、演奏の様子、指、いろいろなものの使い方を比べたとき、教育芸術社の方が良いと思った。

議長：

	今までの意見をまとめると、第1案…教育芸術社、第2案…教育出版でよろしいか。 (承認を得る) 議長： では、伊奈町としては、第1案…教育芸術社、第2案…教育出版の教科用図書とする。 1 2. 美術 事務局：調査結果資料に基づき、美術について内容説明 議長： 質問、意見等あるか。 委員： 光村図書は鑑賞作品から始まるページが多いと感じるがどうか。 調査員： 生徒の実態を考慮して取り上げるのがよい。鑑賞作品から始まる活動が多いことで生徒の表現に影響してしまうこともある。 委員： 鑑賞と表現活動は指導要領上どのような関係性なのか。 調査員： 往還する関係である。 委員： 開隆堂は二次元コードやワークシートが充実している。日本文教出版は内容が多く詰め込んでいる。 委員： 開隆堂は、アニメ、映画など身近な素材を取り上げている。光村図書は別冊が使いやすい。和紙を使った教材も魅力的である。日本文教出版は、生
--	--

徒の作品例が多い。

議長：

開隆堂は、折り込みが工夫されている。図工から美術へのメッセージがよい。作品例も様々あり、生徒の活動の様子、キャラクターもある。光村図書は、キャラクターやタブレットの使用に工夫がある。日本文教出版は、美術書としてはよい。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…開隆堂、第2案…光村図書、第3案…日本文教出版でよろしいか。
(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…開隆堂、第2案…光村図書、第3案…日本文教出版の教科用図書とする。

13. 保健体育

事務局：調査結果資料に基づき、保健体育について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

大修館は、色合いもよく、二次元コードはクイズ形式のものもあり、解説も出ている。コラムは日常生活に生かせる内容となっている。東京書籍は、色合いが優しい。心肺蘇生法の20のスキルというものがよい。二次元コードも充実している。学研は仲間と学習するのに適している。大日本図書は、少し見づらい。

委員：

大修館は詳しく読みやすい内容である。学研はストレスに関する記述が詳しく載っていた。

委員：

大修館は学校の評価も高い。見開き1ページの中にわかりやすい導入、それから知識を深める資料、動画、個人やグループで行う学習のまともで構成されている。学習全体が見通しやすくで知識が身につくように工夫されている。大修館、東京書籍は、課題解決、問題解決的な学習を取り入れてステップを踏んでいる。

議長：

大修館は、ブレンスミーティング、ディスカッション、インタビュアー、アンケート、実地調査など豊富であり、学び方、問題解決的な学習が充実している。資料、文字のバランスもよい。東京書籍は4つのステップで構成されている。問いが多く細かい。巻末のスキルブックの良さがある。心肺蘇生法、がん教育については各社よく押さえられている。東京書籍は特にわかりやすい。学研は、ページの構成が他社と異なっていた。他教科と比べても違いがあり、生徒も戸惑うのではないか。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…大修館書店、第2案…東京書籍、第3案…学研でよろしいか。

(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…大修館書店、第2案…東京書籍、第3案…学研の教科用図書とする。

14. 技術・家庭（家庭分野）

事務局：調査結果資料に基づき、技術・家庭（家庭分野）について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

各社とも二次元コードが充実している。小中連携からの視点も充実していた。食中毒に関することでは、教育図書が詳しく記載されている。次は東京書籍である。開隆堂は少し見にくいと感じた。鮭のムニエルの調理方法は、東京書籍、教育図書、開隆堂の順で詳しく記載されていた。

委員：

開隆堂は、魚の調理方法に関して詳しい記載が見られた。教育図書は、調理実習の掲載順が少し見づらいように感じた。食品の説明に関しては詳しい。東京書籍は、魚の調理方法についての説明が難しい。

議長：

開隆堂は、問題解決的な学習の展開になっている。主体的な学び、対話的な学びが実現できる。写真、イラストが大きくてよい。巻末に課題学習があるが少し少ない。東京書籍は、学習しやすい紙面構成となっている。教育図書は、教科書主導と感じる。振り返りの欄がチェック式であり、文章で記入できるなどの工夫が欲しい。実習の説明では少し見にくさを感じる。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…開隆堂、第2案…東京書籍、第3案…教育図書でよろしいか。

（承認を得る）

議長：

では、伊奈町としては、第1案…開隆堂、第2案…東京書籍、第3案…教

育図書の教科用図書とする。

15. 技術・家庭（技術分野）

事務局：調査結果資料に基づき、技術・家庭（技術分野）について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

委員：

学校の意見はどうか。

調査員：

開隆堂は、資料集のような使い方になってしまうとの意見がある。東京書籍は、授業の流れが出来上がっており、そのまま授業に活用しやすい。また資料も充実しているとのことである。

委員：

東京書籍は、実技や実践例がよくまとまっている。生徒の気付きにつながる。技能を高めるテックラボもよい。開隆堂は、写真や文字の配置がよいが、二次元コードが使いつづらい。教育図書は、二次元コードの内容がシンプルであり、理解を深めるには難しい。スキルアシストは別冊である点かどうか。

委員：

東京書籍は、シンプルで読みやすい。教育図書は、説明が簡易である。開隆堂は、情報量が多く、詳しすぎるのではないか。

委員：

学校からもあるように、東京書籍は教材研究がしやすいと感じる。開隆堂は、内容が大幅に増え、資料集のようになっている。授業の展開のしやすさからみるとどうか。

議長：

東京書籍は、問題解決的な学習が期待できる。安全配慮についての記載も充実している。キャラクターもよく、技術科の楽しさを学ばせることができ。開隆堂は、学習の流れはよくできている。教育図書はたくさん学習パターンが出てきており分かりづらい。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…東京書籍、第2案…開隆堂、第3案…教育図書でよろしいか。
(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…東京書籍、第2案…開隆堂、第3案…教育図書の教科用図書とする。

16. 道徳

事務局：調査結果資料に基づき、道徳について内容説明

議長：

質問、意見等あるか。

議長：

伊奈町として案を決める際に、これまでの経緯を踏まえて、確認しておきたい。道徳が教科化となつて、内容や道徳的価値を教え込むような教科書ではいけないと感じている。考える観点を示すぎていないものがよい。

委員：

学研は、主体的な学び、考え議論する道徳を実現しやすい。道徳的価値をキーフレーズで示し、話し合う柱を2つに絞っているところもよい。学び方を大切にしている。いじめやSNSのことにも触れている。東京書籍は、

主体的な学びを実現できる。テーマを冒頭に示しており、話し合いの柱も2つである。いじめは時期を考えて配置してある。イラストにも工夫が見られる。日本文教出版は、丁寧なオリエンテーションがある。いじめ、SNSに関する内容が充実している。考えてみよう、自分にプラス1など学びを深める内容がある。東京書籍は、いじめを図式化しているものがよい。パラスポーツ、外国人の問題、性の多様性、ジェンダーなど、いろいろな視点から多様性については触れられていた。

委員：

学研は、絵や写真が多く、興味を引く内容であった。学習も進めやすいのではないか。

議長：

学研や東京書籍については、資料の冒頭で多くを示しすぎない点が良い。冒頭で観点等を詳しく示すことで授業はスムーズに流れるかもしれないが、生徒が自由に議論できるようにすることが大切である。その点において、自由な議論が展開できる可能性がある教科書が良い。日本文教出版の道徳ノートは、幅広い活用方法が考えられる。

議長：

今までの意見をまとめると、第1案…学研、第2案…東京書籍、第3案…日本文教出版でよろしいか。
(承認を得る)

議長：

では、伊奈町としては、第1案…学研、第2案…東京書籍、第3案…日本文教出版の教科用図書とする。

議長：

以上で、審査を終了する。

今後の情報開示について確認を事務局よりお願いする。

事務局：

情報開示については、伊奈町ＨＰで公開する。【伊奈町】における協議会については、本会議事録、採択結果及び採択理由を公開する。

【第七採択地区協議会】については、「調査員の報告」「協議」「選定」はすべて公開とする。協議が整わない場合は、投票となる。

採択結果や理由、議事録は、採択後の９月以降に公開する予定である。

議長：

以上で、教科用図書採択に係る臨時教育委員会を終了する。

閉 会

１６時３７分終了

上記、会議顛末の相違なきことを証するため署名する。

令和6年7月17日

議長・教育長

高瀬 浩

署名委員

西川 智美

書

記

甘楽 博